

(様式1)

自己評価票

作成日 平成24年 2月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200016		
法人名	有限会社 凛成		
事業所名	グループホーム 花あかりの家	ユニット名	2階
所在地	〒 313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1262番地の1		
自己評価作成日	平成 24年 2月 25日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>のどかな自然環境に恵まれた所で交通量も少なく、ゆったりした気持ちで過ごすことができます。鳥のさえずりが心を癒してくれ、此処で収穫できた野菜を食べられる楽しみは何者にも変えられませぬ。日々生活する中で入居者様の笑顔が一番の宝物であり、私達介護するスタッフもついつい笑顔で満たされ喜びを感じます。</p> <ul style="list-style-type: none">・毎朝復唱している理念・経営方針を基本に花あかりの家のスタッフが作成した月間理念が達成できるように月1回のミーティングで話し合い確認をしています。・明るく元気な花あかりの家をモットーに施設が明るい雰囲気の中で保てるように、施設長や管理者がスタッフ間のコミュニケーションを計り意見や要望を聞きながら日々過ごしています。また近所の方がたが馴染みの関係になってきた為か季節ごとに取れた野菜を届けてくれたり、庭に咲いている花々を届けてくださる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの資質を高め、それが地域に貢献していくことになるという意味が込められている。朝礼の際に「資質の向上に努め地域に貢献します」という理念を復唱している。さらに、人材育成のため月間目標を掲げ、スタッフ間の意識の統一を図っている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の納涼祭は屋外で開催し近所の方に歌や踊りを披露していただいた。また、地域の運動会やお祭りにも毎回参加している。近所の方には時々野菜や花を届けていただいたり、3月の震災時にも食料品を届けていただいた。徐々に馴染みの関係が築かれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの資格を活かし地域の人たちに認知症の勉強会を催した時は講師として参加したり、運営推進委員会を通して地域の方に入居者の状態を把握してもらい、理解をしていただいている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の委員さん方に入居者様の状態や状況を報告することによって、入居者様の事を理解してもらい、今後の取組についても助言を頂いたり話し合っている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者（施設長）は認知症サポーター養成講座の講師として、市と連携をとりながら協力体制を組んでいる。空床がでた時は市にもお願いして満床に向けての働きかけをしている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今まで危険防止のため施錠を行っていた非常階段側と台所の入口を取り外し、オープンな形にしたが、現在は時々（必要時）台所の入口のみ施錠している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	役所からの通達や情報をもとに、毎月行っているミーティングでスタッフに説明や研修を行い、現場で虐待行為を行っていないかの確認を行い話し合っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会はあるものの、それをなかなか現場のスタッフ全員に理解浸透させるのは時間がかかります。が、今後も学ぶ機会を設けて理解を促していきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に関しては社長、施設長の了解のもとに施設長（ケアマネ）が契約や入居に関しての説明を行い、納得されたうえで入所されている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た際に担当したスタッフが意見や要望をくみ上げ、記録している。家族からの要望で、ビールを毎日飲まれたり、お洒落な方には衣類に気を配ったりして利用者の方が自分で要望できずとも、本人の希望する、以前に近い生活にできるよう努力している。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各スタッフから意見や提案を聞くようにしている。それらを管理者ミーティングでまとめ、月1回のミーティングで全体で話し合うようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフに居室担当の係を設け支援内容の把握を行い責任感を持って働いていただいている。また社長（施設長）が毎年各人と面談を行い要望や意見を聞く機会を設けている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員の入社時の研修を施設長が行い現場への対応をおこなっている。また管理者やスタッフが受けてきた研修を、全スタッフに理解してもらうために休憩時間などを使って実務研修をしたり、時間外を利用して勉強会を実施している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会の催す研修会に参加を呼び掛けたり、参加して勉強会の参考にさせてもらっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に代表者（施設長）が家族や御本人と面会をし、担当ケアマネから情報をもらって参考にしながら、家族の気持ちや要望、御本人の気持ちや状態を導きだしスタッフに申し送って対応の参考にしてもらっている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく施設長（ケアマネージャー）から家族と連絡・連携を取り合い、本人の今の状況、家族の要望等に耳を傾けてスタッフに反映させている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所された入居者一人一人に合った支援・サービスをケアマネがケアプランに反映しスタッフがそれに基づいて実践するようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限りスタッフが入居者の生活を支援し、一緒に話しをしたり、食事をしたりしながら入居者の気持ち・思いを受け止め共に生活する事でスタッフと入居者の関係を深めるようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来るだけ面会に来て頂き、顔を見せて話しをして頂くことで入居者との絆を大事にしてもらっている。面会に来られた際には、今現在の状況を報告し本人にとって今より良いサービスを行えるように心掛けている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にお願いをし、面会の際に自分の家に帰ったり、馴染みの場所に外出してもらっている。また面会に来た知人や親戚に対して、再度来訪してもらえるようお願いしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけホールで過ごす時間を長く取れるようにスタッフが関わり、レクリエーションの実施や毎日日課の歌や口腔体操を必ず実施しながら、入居者同士が関わって楽しめるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に御家族の要望で時々施設に訪れたい要望があったり、近所のお年寄りの状態や家庭環境を見て入所に関する相談の電話や訪問を受けたりして、色々な面で関わりができてきていると思います。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ一人一人の生活に合わせたペースで行っている。利用者や家族の思いや意向を記録するようにしたが、時間に追われほとんど記録できていない。また記録はしても、活用できていないことが多い。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントシートを作成しますがその時入居者の生活歴や思いを書き込みますので、各スタッフが各入居者の生活歴を把握するように心掛けてもらっている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今その人（入居者）のまだ出来る可能性のある残存能力を生かす為に、その人（入居者）の持っている（残っている）能力・特性などをスタッフ全員が把握するように努めています。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に、看護師、管理者、現場のスタッフ、そして家族の声（変化や気づいた点、こうした方がいいというアイデア等）を反映させながら、介護計画にあたっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果は毎日のケース記録にその時対応したスタッフが随時書き込むようにしている。その情報は職員間全員で共有しあい、1日の申し送りとして伝えるようにしている。支援記録は各居室担当のスタッフが書き込むようにしている。（ケアプランに反映させている）
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネージャーと家族との間で、現在の御本人の状態、今後どうしていきたいかなど綿密に話し合い入居者が安心して過ごすことができるよう、スタッフの理解をえながら新たなサービスにも取り組んでいる。またサービス担当者会議を催しスタッフの意見・家族の要望を反映させている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ボランティアの方には季節の行事の際にレクリエーションを実施していただいている。病院受診は施設近くの太田市内の病院をかかりつけにして対応し、近所に余りお店がないので買い物に出る機会は少ないので機会があれば車に乗車してもらい出掛ける機会を設けるようにしています。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される際に、かかりつけ医やご本人、家族に希望を聞き、適切な医療が受けられるよう支援している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで各入居者の状態を把握していますが、夜勤者や日勤者が気付いた時点ですぐに看護師に見てもらおうようにし相談して様子をみています。また継続的な処置も看護師中心で対応しています。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はサマリーを作成し病院に届け、看護師やケアマネージャーが随時、病院の様子を伺い病院関係者や家族と連絡を密にし、情報を交換したり相談をしながら現状を把握している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後の身体の状態を御家族に報告し把握して頂きながら、病院受診が多くなってきた時に御家族や病院の先生と話し合いを行いながら、支援に取り組んでいる。（できるだけ御本人の訴えにも耳を傾け、家族の意向を尊重するように心掛けている。）
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は定期的には実施しないとスタッフに浸透（理解）しないので、年間の訓練を増やし対応します。AEDの実施（訓練）も毎年おこなう。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月の震災後2階の避難方法や入居者の対応などスタッフ間で話し合ったが、まだ不十分なので今後も話し合いを続けスタッフ全員が身につけるようにしたい。今後、地域の防災組織に加盟したり、当施設の避難訓練時、近隣への呼びかけを準備しているが、まだ震災後は実施できていない。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには十分注意している。プライバシーに関しては、入浴の際にはブラインドを、トイレ介助の際にはきちんとカーテンを閉めるようにプライバシーの保護に取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ御本人の気持ちや訴えを聞くようにし、それをスタッフが共有することで日常のケアにつなげている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはこちらの1日の流れに沿って行動していただいているが、御本人の要望や希望を聞きながら言葉を掛けたり、その時の状況を察知しながら其の状況に合わせてベストな対応を心掛けている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時などは化粧をしたり身支度を整えてきれいな洋服をきてもらうよに心掛け、スカーフや帽子などその人らしいおしゃれができる御本人が生き生きとその時間を過ごせるよう支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに関してはスタッフの都合により参加できていない。お米とぎ、後片付けは出来る方には参加していただいている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お年寄りに水分補給は重要と言う観点からケースの記録に水分量をチェックしているので、それを見ながら日々調節している。(食事量も毎日チェックし把握している。)
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各入居者に言葉掛けをし洗面所へ誘導し口腔ケアを行っている。(歯ブラシ対応・スポンジ対応さまざまなので各人に合ったケアの対応をしている。)

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間は睡眠の状態によってベッド上でパット交換やオムツ交換をしてしまうが、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながら毎日排便の確認を行い便秘気味の入居者にはマッサージを行ったり、食べ物を工夫したり、また薬を調整しながら便秘にならないよう対策を練っている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴していただくよう心掛けているが、職員の都合で支援できていない。入浴を拒否する利用者に対しては、タイミングや職員との相性を考慮しながら入浴できるように支援している。入浴剤を使用しているが、今後は菖蒲やゆずなどを利用することによって季節を感じてもらいたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人にとって一番いい1日のリズムが出来る様スタッフ全員で支援していく。入居者によって昼寝をしない方もいますのでその時の状態に合わせてケアを判断しています。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために服薬させる前に必ず名前を確認すること、また服薬させるスタッフをあらかじめ決めておくよう取り組んでいる、が別なスタッフが関わる時は必ず声掛けをするようにしている。また本人の状態で薬に関することであれば、医療機関に情報を公開し相談するようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人が好きなお話、興味を示す事（お話）を日々の生活の中に取り込んで生かしている。それによって充実した毎日を送れるよう支援している。（外出が好きな入居者にはできるだけ買い物時に車に乗ってもらいドライブを楽しんで頂く。）
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか施設全体では、一人一人の希望に沿った外出ができないため、家族にお願いをし、外食や本人に馴染みのある場所へ連れ出している。ただ、ご家族の都合もあり、限られた利用者のみになってしまっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	御本人が管理出来る出来ないに関係なく、御本人の希望によってお金を所持していた入居者様がいましたが、現状ではお金に関して特に訴えは無くなり所持している利用者はいなくなりました。
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	時々遠方からのご家族から手紙が来ることもあるので、現在は直接電話に出る事がないのでスタッフが間に入り変わりにお話をしたりして状況をお話して交流を持っている。
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ホールに季節の花々やお雛様、鯉のぼり、七夕飾り、クリスマスツリー等を飾るようにして季節を感じられるようにしている。また、職員が利用者と季節の物を作成して、行事ごとの雰囲気を楽しんでもらっている。
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	廊下にベンチ（ソファ）を置いて過ごしやすくしたり写真や人形を飾って楽しんで貰っている。また気の合う利用者同士、居室内で楽しくお話ししたり、ゆっくり休んで頂いている。
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	家族の方に家族写真や使い慣れた寝具、鏡台、衣装ケース、タンスなどを持ってきていただいている。
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	建物が広々とした設計になっているので、長い廊下を生かして歩行訓練を行ったり、ベットや椅子等はその入居者に合った安全でかつ自立できるようなものを随時選んでいる。

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない